

果樹を生産している皆さんへ 夏以降の果樹カメムシ類の被害にご注意ください！

令和8年の春は、一部の県で果樹カメムシ類の越冬個体数が多く、気温も高く推移したことから、西日本を中心に越冬個体の園地への飛来が多く認められました。夏以降は、スギやヒノキで繁殖した個体（その年に生まれた子世代）が園地へ飛来します。都道府県の発表する発生予察情報等を参考にしながら、発生状況を注視し、地域一体で、秋の果樹カメムシ類の被害軽減対策を徹底しましょう。

- 果樹カメムシ類の被害は、主に春と夏以降の2回発生します。春は活動を開始した越冬個体による被害、夏以降は繁殖個体（その年に生まれた子世代）による被害とされています。
- チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシは主に山林のスギ、ヒノキなどの果実（球果）を餌に繁殖します。
- スギ、ヒノキなどの果実（球果）が枯渇したら、園地へ飛来します。果実（球果）が少ない場合には早期に飛来し、果実（球果）が多い場合には繁殖量が多くなるため、大量飛来及び越冬個体数の増加のおそれがあります。



チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシ

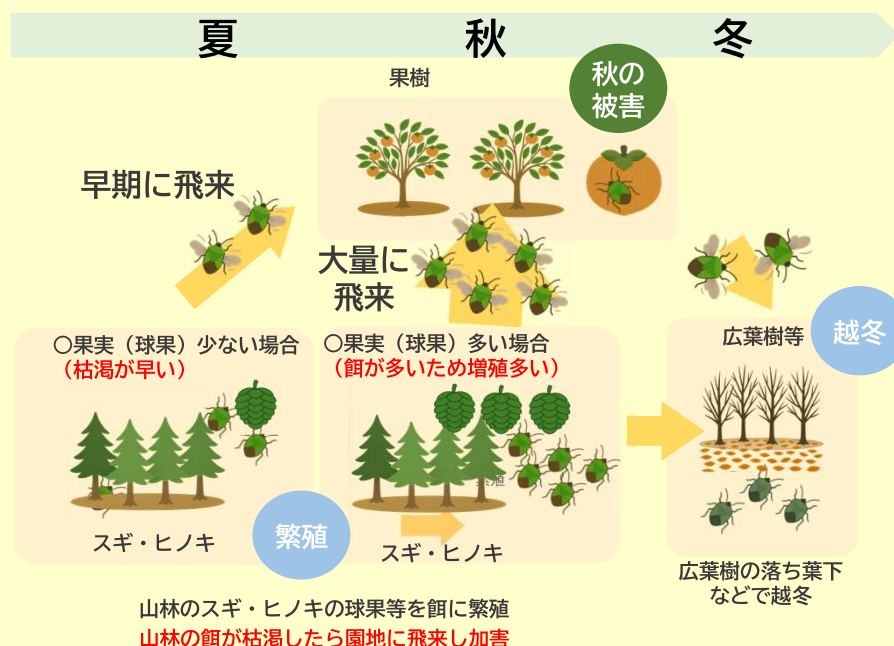


クサギカメムシ



変形したなし

主な種類と被害



夏～秋の園地への飛来（例：チャバネアオカメムシ）

- 例年より春の飛来が多かった地域は、引き続き夏以降の被害にも警戒してください
- 各都道府県の調査結果は、農林水産省のホームページで公表しています。掲載ページは、右のQRコードからアクセス可能です。



防除対策は裏面をご覧ください。

農林水産省

R8.8.5 作成

果樹カメムシ類の防除対策(夏～秋期)

心がけていただきたいこと

果樹カメムシ類の春の園地への飛来が多く見られた場合、引き続き、夏以降の園地への飛来に注意を払う必要があります。被害を最小限に抑えるよう、早めの対策を心がけてください。



スギ林・ヒノキ林などの山林に隣接している園地は、被害が多い傾向があります。

■ こまめな見回り

気付いたら被害が出てしまっていたとならないように、こまめに園地内を見回ってください。

台風は、強風により果樹カメムシ類を山林から強制的に離脱させたり、スギ・ヒノキ球果の脱落等を引き起こして餌不足を招いたりするなど、結果的に果樹園への飛来を増加させる可能性があるため、台風の通過後は、特に園内の観察をきめ細かく行うこと。



■ 地域内での情報共有

都道府県の発生予察情報を参考にしつつ、地域内で飛来情報を共有してください。



■ 飛来を確認したら即防除

飛来を確認した場合、速やかに薬剤散布を実施しましょう。地域一斉に薬剤散布を実施すると防除効果が高まることから、できる限り地域一斉の防除を実施しましょう。



薬剤散布のポイント

- ・カメムシ類は薄暮期から夜間を中心に活動するため**夕方**の散布が効果的です。
- ・**残効性の長い薬剤**を選択してください。
- ・発生量が多いと予想され、見回りが難しい場合は、はやめに薬剤散布を実施してください。

■ 多目的防災網等の点検

多目的防災網又は防虫ネットに破れや隙間がないか念入りに点検してください。

